

永く用ます」転居に付肩書の事御尋なれ共河上ハ委細存し居なれハ肩書なしにて宜く五座ります」試験ハ思の外甘く済したと見得ます約定法の吟味ハ私の答ハ一番能出来たとか云事て其受持の先生から誉られ安心ハ仕ましたれ共未タ半分途故来五月の試験を甘く済さねハ実の安心の安の字も真の面目の面の字も云ません且アメリカ国学校の卒業状ハ百枚貰ても心の字も目の字も云訳にハ参ませんどうしても英国学校にて仕揚ねば本統（本統）の事に往ぬ様存します」博覧会も来十月にハ閉場に成ます」家禄新制ハ誠に難有御改正なり」来月四日頃にハ大統領撰拳ハ極ります」来年内国博覧会ハ御祖母様御同道にて御見物被成ませ御祖母様ハ誠に旅嫌ひてきた人と覺てハ居ますが後々私か東京に家を持た時ハ是非く御祖母様を引張出して家を為見る積たから其時の下稽古に来年東京に御出懸被成へし当家の老母ハ七十余なれ共一人て今日博覧会见物に往りました感心な婆々てハ五座りませんか御叔伯父母様方にハ例の通りよろしく願ます大矢江も其通り

御尊父様

武夫拜答

余りかさに成故藤田江の手紙ハ袋にしました上書をして御届被下ませ

十月十五日初雪降タリ当地にても珍らしき由尋常十一月末より始なり

74 明治9年10月22日 菊池長閑宛

十月廿二日 第十三号 (長閑注記)

第八号達セリ渡洋以来矢鱈に願事をして殊の外高意を煩し誠に濟ません此度一条治士より野引半紙百枚送り呉たり御蔭にて心

(長閑注記)

「十二月十一日達シ日数五十一日ナリ

返事明治十年一月十九日第一号ヲ以出シ